

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立玉幡小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は全国を上回っています。特に、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、聞こうとする話の内容を捉えることは、日頃からの対話的な学習活動の実践と継続した取組の成果から高い定着がみられます。一方、集めた資料を整理して伝え合う内容を検討することには課題が見られます。
- ・算数の平均正答率も全国を上回っています。分数や小数および図形等の相対的な大きさを捉えて計算したり比較したりすることの定着が高く、問題を解決するために必要な数量を見いだすことも正答率が高かったです。一方、数直線上で示された分数を単位分数の幾つ分として捉えることには課題が見られました。
- ・理科の平均正答率は全国よりも低くなっています。「生命」を柱とする領域の発芽や成長について新たな課題を見いだしたり、表現したりすることに課題が見られます。水の状態の変化や流れの働きについての概念的な理解の様子は全国を上回っています。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」「読書は好き」とする児童が全国より高いです。
- ・課題となる項目
「自分にはよいところがあると思う」とする児童の割合が全国よりも低いです。「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていない」児童の割合が全国よりも高いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・児童が主体的に学習に取り組む対話的な学びの場を工夫し、学校生活の様々な機会において説明したり発表したり意見交換をしたりすることを取り入れながら指導にあたっていきます。
- ・学習や学校生活での取り組みや諸活動について児童の努力や頑張りを認め合う機会を今後ももち、自己肯定感や達成感の向上を図っていきます。
- ・日常生活での事象との関連づけや教材を工夫しながら、児童の実態に即した学習指導を進め、数学的思考力や科学的に事象を捉える力の向上を図っていきます。
- ・家庭との連携をこれからも進めながら、自主的な学習や復習に取り組めるように児童に働きかけながら、基礎学力の定着を図っていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・家庭学習に取り組んでいる子どもに対して賞賛や励ましの言葉の声かけをしてあげてください。
- ・時間や場所の工夫など、学習習慣や環境づくりに協力してあげてください。
- ・子どもの時間の使い方を把握し見守りながら、必要に応じて時間のアドバイスをしたり、家の約束を守れるように声かけをしたりしてあげてください。
- ・子どもが話しているときには積極的に耳を傾け、親子で共有できる時間を大切にしてください。